

目指す学校像	「温かい学校 感動あふれる学校」 ・時を守る ・場を清める ・礼を正す
重点目標	1 確かな学力の育成と「生徒の個別最適な学び」や「探究的な学び」に向けた授業改善 2 生徒が主体的に活躍する教育活動の実施と生徒一人ひとりを大切にする安心・安全な支援体制の推進 3 地域の学校を目指した教育活動の推進と積極的な情報発信 4 指導力向上を目指した学び続ける教職員と働き方改革の推進

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価					評価			学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和6年3月7日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査（R4）では、国語が全国平均と同じであったが、数学は全国・市ともに平均に達していない。また、市学習状況調査では、全教科とも市平均に達していない状況である。 ○市の学習状況調査（R4）において、各教科の勉強が好きであるかに関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ国語、社会、理科でやや高く、数学、G・Sでやや低い。 <課題> ○市の学習状況調査（R4）の結果概要から、各教科のどの領域についても課題が見られ、既習事項の定着が必要である。 ○生徒アンケート（R4）の結果、「家庭学習をしている」に対する肯定的な回答が7割強である。一方、市の学習状況調査（R4）では、「家で自分で計画立てて勉強をしている」に対する肯定的な回答はそれほど高くない。家庭学習の取り組み方について、その意義や勉強方法について意識を高めさせる必要がある。	・確かな学力の育成	①各種調査の結果に基づいた各教科における本校の学習課題を明確にし、授業内での帯学習等による継続的な取組を行う。 ②スタディサプリを活用した家庭学習の習慣化並びに定期テスト前質問教室の実施と学習スペースの設置。	①学校評価（生徒・保護者アンケート） 「授業は楽しく分かりやすい」について、肯定的な回答が90%以上となったか。 ②市の学習状況調査「家で自分で計画立てて勉強をしている」に対する肯定的な回答の割合が昨年度を上回ることができたか。	①学校評価（授業）における生徒の肯定的な回答は90%を上回ったものの、保護者の肯定的な回答は70%を下回る結果であった。 ②市の学習状況調査「家で自分で計画立てて勉強をしている」に対する肯定的な回答の割合は、昨年度より4.3%低く、昨年度を下回る結果となった。	B	各教科における必ず身に付けさせたい基礎・基本を明確にし、その定着を図る小テストを計画的に行うことで、定期テスト以外で日々学習に取り組む習慣を身に付けさせる。併せて、学習課題に対して調整しながら取り組む力を身に付けさせ、家庭学習の取組が実際のテストに反映できるようにする。	・生徒と保護者アンケートの差について、それぞれの意見をもっと掘り下げた分析をしてみてはどうか。 ・授業に対する生徒アンケートの高評価から教員との信頼関係が見られる。一方で、いかに学力を定着させていくかについて、具体的な手立てを見出してほしい。 ・家庭学習の習慣化について、学校と家庭の連携が必要である一方で難しい家庭もあるので、授業でのフォローも必要である。 ・他との比較ではなく、生徒一人ひとりがどう伸びたかにも着目してほしい。
2	<現状> ○生徒アンケート（R4）の結果、「学校生活は楽しい」に対する生徒の肯定黄な回答は93%である一方、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている一方で、市平均では下回った学年も見られた。 ○市の学習状況調査（R4）において、「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は市平均をやや下回っている。 ○施設・設備に係る安全点検は定期的に行われているが、修繕が必要な個所の対応が十分できていない。 <課題> ○自己肯定感や自己有用感を高めるために、達成感を味合わせられるような生徒主体の取組を積極的に取り入れる必要がある。 ○生徒一人ひとりの状況を踏まえ、よりの確かな支援や相談を行う体制や組織作りが課題である。 ○定期的な安全点検に加え、ミスを未然に防ぐ視点をもった危機管理意識を高めていくことが課題である。	・生徒が主体的に活躍する教育活動の実施	①学校行事等において、生徒が話し合いの場で主体的に意見を発表したり協議したりする場を積極的に設けること ②心と生活のアンケートにおける「信頼自己」の項目の割合が昨年度を上回ることができたか。 ③生徒の達成感や満足度を調査するためのアンケートも実施する。 ④自分自身の行動に責任をもつエージェンシーの育成を図る。	①生徒が主体的に意見を発表したり協議したりする場が積極的に設けることができたか。 ②心と生活のアンケートにおける「信頼自己」の項目の割合が昨年度を上回ることができたか。 ③学校評価（生徒・保護者アンケート） 「学校行事等」について、肯定的な回答95%以上となったか。	①学級・学年活動や生徒会活動等を通して主に学校行事への取組において、生徒が主体的に意見を発表したり協議したりする場を設けることができた。 ②心と生活のアンケートにおける「信頼自己」の項目の割合は、昨年度同時期（第3回1月実施）と比べ、1ポイント上回っていた。 ③学校評価（学校行事等）における生徒の肯定的な回答は95%以上となったものの、保護者の肯定的な回答は90%をわずかに下回った。	A	学級活動・委員会活動・学校行事等を通して、生徒が主体的に意見を発表したり協議したりする場をより積極的に設けることで、生徒自らが計画運営に携わることで、自己肯定感を高め、達成感をもてる教育活動を推進する。併せて、生徒の行動をしっかりとフィードバックすることで、自らの行動に責任をもたせる。	・生徒が一体・主体になっている取組に成長を感じる。また、未来くるワークに取り組む生徒の姿から、中学生の持っている可能性を感じたので、もっと活躍させてあげたい。 ・「Sola る一む」は良い取組だが、常駐できる人材を確保してほしい。また、保護者と教職員との情報共有を確実に行ってほしい。また、学校内に信頼できる大人がいることが生徒の安心感につながると思う。 ・組織運営に関する教職員アンケートの結果が高くなかった。課題を分析して改善を図ってほしい。
3	<現状> ○コロナ禍の影響もあってか、市の学習状況調査（R4）の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「ボランティア活動に参加したことがありますか」に対する肯定的な回答は、市平均を大きく下回っている。一方、「地域の人たちは、自分たちを見守り、支えてくれている」に対する肯定的な回答は、市平均を上回っている。 ○朝のあいさつ運動やチャレンジスクール等の様々な場面で、PTAや地域の方々に多大な協力をいただいている。 <課題> ○コミュニティ・スクールを中心として、生徒が地域で積極的に活躍する場を設けていく議論を積極的にすすめる必要がある。 ○学校だよりやホームページに加え、生徒の活躍している様子を地域に積極的に発信するための手段等について検討する必要がある。	・地域の学校を目指した教育活動の推進	①学校運営協議会において、生徒が参加できる地域の活動場面の情報提供を依頼するなど、学校外での生徒の活動場面を増やす。 ②保護者や地域の方々が授業や学校行事を参観できる機会を昨年度より多く設定する。	①学校評価（保護者・地域アンケート） 「開かれた学校づくり」について、肯定的な回答95%以上となったか。 ②保護者や地域の方々が授業や学校行事を参観できる機会を昨年度より多く設定できたか。	①学校評価（開かれた学校づくり）における保護者の肯定的な回答は95%をわずかに下回った。地域の肯定的な回答は60%をやや上回る程度であった。 ②新型コロナの5類移行に伴い、体育祭や合唱コンクール等の参観者の制限をなくするとともに、地域の来賓にも参観いただく機会を設けることができた。	B	学校外での生徒の活動場面をより増やすために、地域との情報共有を積極的に行う。特に、避難場所運営訓練への参加を推進し、生徒が地域の力になるよう啓発に努める。また、学校行事だけでなく、授業を参観できる機会を積極的に設ける。	・生徒が作成する学校新聞があるとよいのではないかな。 ・防災訓練への生徒の参加をもっと積極的に進めてほしい。また、各自治会の取組への参加の啓発も行ってほしい。 ・学校からの要望があれば、地域はそれに対応できる余力はあるので、ぜひ言ってほしい。 ・関係小学校とのコラボについて検討をしていってはどうかな。
4	<現状> ○昨年度研究発表を行った「読解力向上」に加え、教科横断的な視点に立った授業改善に向けた研究を行っている。 ○授業時におけるICTの活用について差が見られる。 ○教材研究や生徒指導・教育相談等の業務に熱心かつ確実に取り組んでいる一方で、勤務時間の削減が図れていない。 <課題> ○生徒自らがICTを主体的に活用した授業づくりが課題である。 ○業務のより一層の効率化びに軽減が必要である。	・指導力向上を目指した学び続ける教職員	①キャリア振り返りシートに基づいた受賞奨励を行い、研究発表会や研修会への参加を積極的に推進する。 ②アクティブ・ラーニング型並びに教科横断的な視点に立った授業改善に向けた公開・研究授業、校内研修を実施する。 ③業務の見通しをもち、定時退勤日の設定を増やす、年休の取得日数10日以上設定するなど、メリハリのある勤務を推進し、在校時間の削減を行う。	①全教職員が研究発表会または研修会に参加できたか。 ②アクティブ・ラーニング型並びに教科横断的な視点に立った授業改善に向けた公開・研究授業、校内研修を実施できたか。 ③定時退勤日の設定と実施、年休の取得日数を増やすなど、在校時間の削減が図れたか。	①全教職員の研究発表会または研修会への参加はほぼ達成することができた。 ②全教員による公開・研究授業の実施並びに校内研修も予定通り行うことができた。また、指導主事を招いて授業におけるICTの積極的な活用研修会も実施した。 ③個々の事情により、定時退勤日の設定を一律に設けることはできなかった。年次休暇の取得推進等の啓発に努めてはいるものの、在校時間の削減には依然課題がある。	B	常に最新の情報を共通しながら、生徒の実態に即した教育活動が実践できるよう校内研修を推進する。在校時間や業務の偏りなどに課題があるため、教職員の働き方改革についてなお一層検討を重ねていく必要がある。	・生徒が夢をもって頑張っているのかどうかについて、教職員がぜひ応援してあげてほしい。併せて、夢の実現に向けて、達成方法やそのための指導もぜひ行なってほしい。 ・教職員の努力をしっかりと評価し、数値に反映できるよう取り組んでほしい。